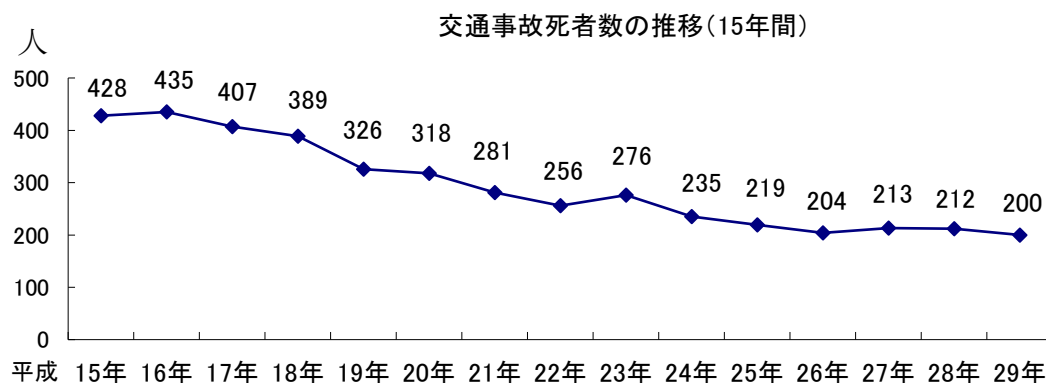


## 地域安全課広報啓発活動について

### 1 本県の交通事故の状況

- 交通事故死者数は減少傾向にあるものの、昨年は200人で15年連続全国ワースト1位であった。



- 平成30年に入ってから死亡事故が多発し、8月末現在の交通事故死者数は、125人（前年同期比+1人）と依然として、厳しい状況となっている。  
8月末現在、全国ワースト1位となっている。

- 交通死亡事故の大きな特徴（平成30年8月末現在）
  - ・ 高齢者が犠牲となる事故が69人と、死者数全体の55.2%占めている。
  - ・ ドライバーが交通死亡事故の第一原因者の77.6%を占めている。
  - ・ 当事者別の死者は歩行者が35.2%を占めている。

### ◇都道府県別交通事故死者数(平成30年8月末暫定数)

	都道府県	死者数	増減数	増減率
1	愛知	125人	+1人	+0.8%
2	埼玉	121人	+15人	+14.2%
3	千葉	111人	+21人	+23.3%
4	神奈川	99人	+13人	+15.1%
5	福岡	92人	+7人	8.2%

### ◇年齢別交通事故死者数(平成30年8月末暫定数)

	子供	若者	一般	高齢者	計
死者数	3人	11人	42人	69人	125人
構成率	2.4%	8.8%	33.6%	55.2%	
増減数	0人	+6人	-11人	+6人	
増減率	0.0%	+120.0%	-20.8%	+9.5%	

子供・・・15歳以下、若者・・・16～24歳、一般・・・25～64歳、高齢者・・・65歳以上

### ◇法令違反別（第一原因）交通死亡事故件数(平成30年8月末暫定数)

	件数	構成率
原付以上	前方不注意等	39件 31.2%
	歩行者妨害等	14件 11.2%
	信号無視	7件 5.6%
	一時不停止	6件 4.8%
	その他	31件 24.8%
小計	97件 77.6%	
自転車	17件 13.6%	
歩行者	11件 8.8%	
計	125件 100.0%	

原付以上・・・原付、自動二輪、四輪車

### ◇当事者別（平成30年8月末暫定数）

	歩行者	自転車	原付	自二	四輪車	その他
死者数	44人	24人	11人	20人	26人	0人
構成率	35.2%	19.2%	8.8%	16.0%	20.8%	0.0%
増減数	+5人	-2人	+5人	+8人	-11人	-4人
増減率	12.8%	-7.7%	+83.3%	+66.7%	-29.7%	-100.0%

## 2 「平成 30 年度愛知県交通安全実施計画」の策定

県、県警察及び国の関係機関等の代表者による愛知県交通安全対策会議（会長：知事）の決定を経て、「第 10 次愛知県交通安全計画」に基づき、本県が平成 30 年度に実施すべき総合的な交通安全対策の施策である「平成 30 年度愛知県交通安全実施計画」を策定した。

## 3 平成 30 年度の取組

### (1) 交通安全県民運動等の実施

市町村や県警察を始め、関係機関・団体、事業所等が一体となり、春・夏・秋・年末の季節ごとに「交通安全県民運動」を県内全域で広く展開している。

〈今後の予定〉

- ・高齢者交通安全週間（9月14日～20日）
- ・秋の全国交通安全運動（9月21日～30日）
- ・年末の交通安全県民運動（12月1日～10日）
- ・飲酒運転根絶強調月間（12月）
- ・交通安全県民大会（31年1月11日）

### (2) 重点事業等

#### ア 高齢者の交通事故防止対策の実施

新聞広告や名古屋駅前での広報ほか、高齢者のリスナーが多いAMラジオCMやラッピングトラックによる広報などを実施するとともに、夜間の事故防止に効果のある反射材を配布し、着用の促進を図る啓発キャンペーンを実施する。また、認知症対策の強化が図られた道路交通法及び運転免許証の自主返納制度も周知する。

【新聞広告】 9月14日（中日新聞紙上）

【名古屋駅前広報】 ナナちゃん人形への装飾及びナナちゃん前セレモニー（9月12日）

【ラジオCM】 10月1日～31日（90回以上）

【ラッピングトラック】 11月1日～30日（県内10市区を巡回）

【啓発キャンペーン等】 9月～12月（街頭や病院等で約40,000個の反射材を配布予定）

交差点など、道路の横断に必要な判断力をチェックできる「歩行環境シミュレータ」を活用した、参加体験型の出張講座を県内各地で開催する。

◇「第 10 次愛知県交通安全計画」（平成 28 年度～32 年度）に掲げた死傷者数の目標

- 平成 32 年までに
- ・年間の 24 時間死者数を 155 人以下
  - ・年間の交通事故死傷者数を 39,000 人以下



【夏の交通安全県民運動の啓発活動】平成 30 年 7 月 11 日

◇反射材着用による効果



夜間、明るい服装に反射材を身に付けている場合は、黒っぽい服装の場合と比べると、約 2 倍の距離にいる車から確認することができる。

◇歩行環境シミュレータ

3面スクリーンで現実に近い交通環境を表示し、実際の道路を横断しているかのような疑似体験ができる。



## イ ドライバーの交通事故防止対策の実施

重点対策市町村を中心に県民からモニターを募集して、ドライブレコーダーを一定期間搭載してもらい、運転診断を実施している。また、運転診断から得られた事故防止の注意点や、交通安全に積極的に取り組む自治体・企業の取組事例を県民に紹介する「安全運転セミナー」を開催する。

## ウ 車両運転中の「ながらスマホ」対策の実施

インターネットや映画館での動画広告、「ドライビングシミュレータ」等を活用した参加体験型の啓発イベント及び「ながらスマホ」の危険性を周知する啓発キャンペーンを実施した。

- 【インターネットでの広報】動画配信サイト「YouTube」で配信
- 【映画館での広報】8月上旬から、県内8劇場で映画本編上映前に放映
- 【啓発イベント】プライムツリー赤池（8月5日）

## エ 横断歩道における「歩行者保護」意識の醸成

「歩行者が横断歩道を渡ろうとしていたら、ドライバーは必ず止まる」の意識を広めるため、幹線道路における横断幕の掲出や、市町村・県警察と合同で、県内各地で、ドライバーへ『歩行者保護』の呼び掛けを行っている。

## 4 その他

### (1) 自転車の安全利用の推進

自転車を運転する際に起こりうる危険を体験学習できる「自転車シミュレータを活用した、参加体験型の出張講座を県内各地で開催している。

### (2) 交通死亡事故多発警報制度の効果的な運用

交通死亡事故が多発した場合に、タイムリーに警報等を発令し、県、市町村、県警察及び関係機関・団体が相互に協力して、総合的かつ集中的な交通事故防止対策を推進し、死亡事故の抑止を図る。

### ◇重点対策市町村

過去2年間（28年1月～29年12月）で、安全不確認、前方不注意等に起因する人身事故件数が多い市区  
千種区、中区、中川区、緑区、豊橋市、岡崎市、一宮市、春日井市、豊川市、豊田市

### ◇ながらスマホ

車両運転中の「ながらスマホ」は、重大な事故につながる危険性が高く、法令に違反する行為



### ◇歩行者保護

平成29年中の交通事故死者数のうち、歩行者の死者は約4割（83人）を占める。  
このうち、道路横断中が約7割（58人）となっている。



### ◇自転車シミュレータ

画面上に現実に近い交通環境を表示し、実際に自転車を運転しているかのような疑似体験ができる。



### ◇交通死亡事故多発警報制度

- ①10日以内に交通事故死者数10人以上
- ②全国ワースト1位で2位との差が10人以上、かつ、前年比10人以上増加

